

呼吸する肉塊

初瀬川幸次郎

【登場人物】

田中

近藤

山田

高橋

小林

渡辺

井上

ある町にある小さな施設の一室。

部屋は簡素なパーティションにより半分に区切られ、手前が着替えスペースのようになっており、その奥には首吊り用スペースが設けられている。パーティションの隙間からロープがいくつもぶら下がっているのが見える。

田中が着替えスペースにあるソファに座っている。

そこに近藤が現れる。

近藤
ねえ。

田中
あ。

近藤
田中くんだよ。

田中
ああうんそうそううん。

近藤
おお久し振り分かる？

田中
ええと高橋さん。

近藤
違うよ近藤。

田中
ああそうかそうかなんかごっちゃに色々。なんか名前似てるから。

近藤
1文字も合ってるないよ。

田中
文字数とか似てるから。でもなんか大人になったね。

近藤
大人だし。

田中
そうだよ。

近藤
中学以来だから10年くらい？

田中
うん。

近藤
田中くんはあんまり変わらないね。

田中
そうかな。

近藤
元気してた？

田中
うんまあなんとか。

近藤 いまはなにしてるの。
田中 普通に仕事してるよ。
近藤 へえそうなんだ。普通に？
田中 もの凄く普通に。そういう近藤さんはなにしてるの。
近藤 結婚したんだけど今はひとり。
田中 そう。仕事してるの？
近藤 まあ一応。
田中 そうなんだ。
近藤 うん。
田中 仕事ってどんなの？
近藤 何て言うか電話でのセールスみたいな奴。

近藤の携帯が鳴る。

田中 鳴ってるけど。

携帯を取らない近藤。

田中 いいの？
近藤 うん大丈夫。

携帯鳴り止む。

田中 セールスか凄いね。
近藤 別に凄くないよ。
田中 何を売るのが。
近藤 壺。
田中 壺？
近藤 そうそう。これを買ったちどころに病気が治りますみたいなの。
田中 凄いねそれ。
近藤 欲しいの？
田中 値段にもよるけど。
近藤 50万。
田中 結構高いね。
近藤 一応30万というのものもあるよ。7割くらいに効果落ちるけど。

田中 7割治るんだ。8割とか6割とかじゃなくて7割なんだ。凄い匙加減。50万より凄いんじゃないのそれ。

近藤 あくまで『くらい』だから。

田中 じゃあ8割治ることもあるの。

近藤 うんまあ多分。

田中 でも8割治ったって誰が測定したの。

近藤 医者じゃないかなたぶん。

田中 7割と8割じゃなかなか判別付かなそうだけどうやって計ったんだろう。

近藤 なんか特殊な機械とかあるんじゃないの。

田中 7割か8割か測定する機械？

近藤 いやいや。

田中 どうしてそんなピンポイントな機械作ろうと思ったんだろうその人。

近藤 いや別に7割か8割かを測定する為の機械じゃなくて。

田中 それでどこかの医者がそれを使って『7割』とか書いて提出するんだ捺印して。

近藤 まあそれはそうでしょうね。

田中 なんか怖いねそれ。

近藤 あなたの方が怖いわよ。

田中 なんです。

近藤 いやいや嘘だから。

田中 じゃあ本当は何割なの。

近藤 じゃなくて壺なんか売ってないから。

田中 ああそうなんだ壺なんか売ってないんだ。

近藤 うんそんな訳ないじゃん。

田中 確かに近藤さんは壺売るタイプじゃなかったよね。

近藤 田中くんは冗談が通じないってことは思い出した。

田中 というかなんで嘘つくの。

近藤 いやむしろなんで信じるの。

田中 10年振りだったら何があっても不思議じゃないでしょ。

近藤 だからって。

田中 こんな施設出来ちゃうくらいだし。

部屋を眺める二人。

近藤 それはまあ確かに。

田中
でしょ。

近藤
本当は太陽光発電のパネルみたいな奴売ってる。

田中
で本当は何してるの。

近藤
いやそれは本当。

田中
ああ本当なんだ。

近藤
他の人は？

田中
いやまだ。今まだ3時45分くらいだから、もう少ししたら集まってくるんじゃないかな。

近藤
本当に皆来るのかな。

田中
どうだろう。

近藤
だよ。正直田中くんがいたってだけで驚いてる。

田中
ぼくも。誰か来るとは思わなかったから。

近藤
わたしも。

田中
5時になったらそこで首吊ろうかと。

近藤
やめてよもう。

田中
うん。

近藤の携帯が鳴る。

近藤、携帯を見るが無視をする。

田中
鳴ってるよ。

近藤
うん。

田中
いいの？

近藤
というかなんでここなの待ち合わせ。外にしようよ。

携帯鳴り止む。

田中
でもここでって言ってたでしょ確か。

近藤
うんでもこの部屋でってことじゃないでしょ。あまりここに居たくないかも。

田中
でもここでって言ってたから。

近藤
んー。

田中
でしょ。

近藤
なんか凄い複雑。

田中
なにが？

近藤 あの時メンバーってあと誰だっけ。
田中 山田と、渡辺と、中村さん。あとは高橋さん。
近藤 中村さん来るのかな。
田中 来ないと困るよ。中村さんいなかったら今日の集まりもほとんど意味が
無し。
近藤 そうだけどさあ。
田中 会いたくないの？
近藤 会いたいような会いたくないような。田中くんは？
田中 今日は中村さんに会いに来たようなもんだから。
近藤 そう。

ドアが開いて小林が現れる。

奥に行こうとしてすぐに引き返す。少し挙動不信。
それを見守る二人。

小林 あの。
田中 ああはい。
近藤 あ。山田くん？
小林 ヤマダ？
近藤 あれ違うか。渡辺くんかな。
小林 ワタナベ？
近藤 え、誰？
小林 誰って。なんで名乗らないといけないんですか。
近藤 なんですか一体。
小林 なんですかってあなたこそなんですか。
近藤 ここで待ち合わせしてるんですけど。
小林 待ち合わせ。……ここで？
近藤 ああ。そうかそうか。ごめんなさい。もしかして首を吊りに？
小林 そうですよ。それ以外にここに来る理由がありますか。
近藤 すいません。わたしたちの方がおかしいですよ。
小林 あのすいませんけど、死にたいのでここで着替えてもいいですかね。
近藤 ああもちろんです。
田中 どうぞ。
小林 このロッカーに着替えが入ってるんですね。
田中 いやちょっと分からないですけど。

小林 確かその注意書きにそう書いてあった気が。
近藤 ああありましたね。ちょっと見てきます。

近藤、部屋を出る。
変な沈黙。

田中 自殺ですか。

小林 はいまあ。

田中 それはまたどうして。

小林 なんでそんなこと言わないといけないんですか。

田中 それはまあそうですね。

小林 止めるつもりですか。

田中 いいえ。

小林 ああそう。

田中 なんで少しがっかりしてるんですか。

小林 そう簡単に否定されるとね。

田中 止めるフリでもしましょうか。

小林 止める気が全く無いことは分かりました。

田中 そうですか。

小林 最近はそのような慈善団体もいるそうですね。

田中 そういつって言うのは。

小林 自殺を止めることを生き甲斐にしている団体。

田中 へえ。

小林 この前も他の施設で死のうとしたら必死で止められましたね。

田中 余計なお世話ですよね。

近藤、紙を持って入室。

近藤 あったあった。そこに配布用のもあったから持ってきた。

田中 そんなのあるんだ。

その後を追って井上が入ってくる。

近藤 ん。なんですか。

井上 なんだか騒々しいので。

近藤 ああすいません。

井上 こんな大勢でなにしてるの。

近藤 この方が自殺されたということなので注意書きを。

井上 なんでこんな大勢いるの。

田中 いやちょっと。

井上 普通こんなところにわらわら来ないでしょ。

近藤 すいません。

井上 すいませんじゃなくてなんなのこれは。

近藤 ちょっと色々あります。

井上 色々はわたしにだってありますよなんならお話ししようか色々を。

近藤 いやいいです。

井上 いや話しましょう色々。

近藤 いやいいです。

井上 いいの？

近藤 いいです。

井上 ああそう。

近藤 いいです。

井上 こちら時に閉めますからさっさと済ませてくださいよ。

近藤 分かりましたすいません。

井上、退室。

近藤 『さっさと済ませて』って。

田中 もう日常のことなんでしょきつと。

小林 じゃあさっさと済ませます。

近藤 確かそこに着替えあるようですよ。

小林 そうですか。

田中 ちょっと見せて初めて見る。

近藤 わたしも。

3人、紙を眺める。

近藤 ええと、「一、そのロッカーに自殺用の着替えがあるので、それに着替えてください。着て来た衣服は代わりにロッカーに入れておいてください」。

田中 「二、遺書は衣服の上に置いてください」。

近藤 「三、危険なので必ず踏み台に上がってからロープを首に掛けてください。ロープの長さ調整はロッカー横の脚立をご利用ください」。

小林 あああれか。

田中 首括るっつうのに危険とか言われても。

近藤 「四、必ず白い袋を頭に被ってから行ってください」。

田中 いつも思うんだけどこれってなんで必要なんだろう。

近藤 処理する側の問題なんじゃない。

田中 どういうこと。

近藤 顔見たくないでしょ。

田中 ああ。

近藤 「五、必ず自殺の1時間以上前に自殺用ピルを服用してください」。

田中 自殺用ピル。飲みましたか？

小林 いや飲んでない。

小林、鞆から薬を取り出して飲むとするが、なかなかうまく飲み込めない。

近藤 水ない？

田中 ない。ちょっと外で水飲んできたほうが。

小林 ん。

小林、部屋から慌てて飛び出す。

田中 そういえば学校でもちゃんと飲めって言われたな。

近藤 先生どうしてるのかな。

小林、部屋に戻ってくる。

小林 ああすいません。

田中 いや別に。

近藤 ちゃんと飲めましたか。

小林 一応。

田中 でも1時間待たないと。

小林 まあ大丈夫でしょ。

近藤 駄目ですよ。
小林 飲んだからちゃんと。
近藤 わたしたちが困りますから。
小林 なんで。
田中 それって死んだ後に色々漏らさないようにする薬でしょ。
小林 そうなの？
近藤 そうですよ。
田中 学校で習ったでしょ。
小林 学校でいちいちそんなこと教えないでしょ。
田中 いやいやぼくたちは教えて貰ってるし。
近藤 たぶん学校によって違うんじゃない。
田中 そうなの？
小林 どうせ紐の調整とかしてたら一時間くらい経ちますよ。
近藤 まあそれはそうかもしれないですけど。
小林 じゃあ着替えますので。

小林、二人を掻き分けてロッカーから着替えを取り出し、おもむろに着替え始める。
それを眺める田中と近藤。

田中 ああやっぱりちゃんとオムツもあるんだ。
近藤 ほんとだ。
小林 あのすいません。
近藤 はい。
小林 ちよっと着替えにくいんですけど。
田中 ああ別に大丈夫ですよ。
近藤 別に気にしてませんから。
小林 あんたらが大丈夫でもこっちが大丈夫じゃないんですけど。

ドアが開いて山田が現れる。

山田 え、なにこの状況。
近藤 ああ山田くん？
山田 うんそうそう。近藤さん？
近藤 近藤。久し振り。

山田 久し振り。なんかちょっと雰囲気変わったね。
近藤 山田くんもちょっと変わった気がする。
山田 まあ10年経ってるからね。あれ田中？
田中 うん。
山田 なんか久し振りだな。

和やかになる田中、近藤、山田。

小林 ちょっと待て。
近藤 ああお気になさらず。
小林 いやだから。
山田 なんでこの人半裸なの。
近藤 自殺用の衣装に着替えてる。
山田 ああそうなんだ。
田中 そうそう。この辺も学校で習ったよね確か。
山田 習った習った。
小林 あの楽しそうなところすいませんけどどこか行ってくれませんか。
山田 なに。なんであなたにそんなこと言われないといけないの。
小林 いや死にたいので着替えてるんです。
山田 ああお気になさらずどうぞ。
小林 いやだから見られていたら気になるでしょ。
山田 じゃあ見ないようにしますから。

小林、渋々着替えを再開する。

小声で会話を再開する田中、近藤、山田。

山田 そういえば最近子供が生まれたんだよ。
近藤 ええそうなの。男？ 女？
山田 女の子。
近藤 へえそうなんだ。
田中 へええ。
山田 写真あるよ。
近藤 見せて見せて。

写真を取り出す山田。

近藤 可愛い。
山田 でしょう。
田中 こんなところにホクロあるんだ。
山田 ん？
田中 ほらここ。
近藤 ほんとだね。
山田 汚れじゃないの。

写真をこする山田。

山田 あれ。
近藤 いやホクロでしょこれ。
山田 こんなところにホクロあったかな。
田中 いや写ってるし。
山田 うわなんか気になる。
小林 写ってるんだから仕方ないでしょ。

いつの間にか小林が輪に加わっている。

山田 いやあんたなんで加わってるんですか。
小林 なんか楽しそうだから。
近藤 早く着替えてくださいよ。
小林 じゃあちよつと黙っててくれませんかね。
山田 ああもう分かったよ。
小林 頼みますよ。
山田 ホクロ絶対ないと思うんだけど。
近藤 あとで確かめればいいでしょ。
山田 そうだけど。
小林 静かにしてください。
近藤 ああすいません。

改めて着替えだす小林。
またぼそぼそと話し出す3人。

田中 着替えにちゃんとオムツも入ってるんだよ。
山田 ああそうなんだ。でも薬飲むんだから大丈夫でしょ。
近藤 念の為なんじゃない。
山田 まあそうなんだろうけどさ。
近藤 いざ漏らしたら処理が大変だしね。
山田 そうか。
田中 あの人もオムツ履くんだろうね。
山田 そりゃ履くんだろうね。
近藤 見てはいないけどきつと今履いてるんでしょうね。
田中 見てはいないけど履いてるだろうね。
山田 見てはいないけど履いてるだろう。
小林 履けねえよっ。

振り向く3人。

田中 いや気にせず履いてくださいよ。
小林 履けねえよ。
近藤 見てませんか。
小林 見てなくてもっ。
山田 自殺したいんでしょ。
小林 もうどこか行ってくれませんか。
山田 じゃあ外で待つ？
近藤 わたしもさっきそう提案したんだけどね。
山田 駄目なの？
田中 だってここで待ち合わせって先生言ったでしょ。
近藤 って言うから。
山田 だそうです。
小林 もう少し粘ってくださいよ。
山田 分かりました。じゃあ田中どうする？
田中 ここにいる。
山田 だそうです。
小林 全然粘ってないじゃないか。
山田 彼こう見えて頑固なんですよ昔から。
小林 知らないよ。
山田 じゃああれですよ。ここから一キロくらい歩いたところにも施設あるから

小林　　そこでどうですか。

田中　　なんでぼくが歩かないといけないんですか。

近藤　　死ぬ前にもう一度景色眺めながら歩くのもいいんじゃないですか。

山田　　そうそうそうそう。

小林　　もしかしたら生きる希望が湧いてくるかもしれない。

近藤　　ないからそんなの。

山田　　諦めたら終わりですよ。

小林　　そうだよ。

山田　　諦めたからここにいるんですよ。

小林　　そりゃそうだけど。

山田　　出てってくださいよ。

田中　　どうする？

山田　　ここにいる。

小林　　だそうです。

近藤　　ちきしょう。

小林　　わたしたちなら大丈夫ですから。大丈夫じゃないけど。

山田　　おかしいでしょだから。

田中　　んーどうする？

山田　　ここにいる。

小林　　だそうです。

山田　　もういいそれは。

小林　　申し訳ないんですけど田中はたぶんここ動かないですよ。先生と約束した

近藤　　ことですから。

山田　　なんだよ先生ってよ。

小林　　本田先生。

山田　　知らんよ。

小林　　だから見られながら死ぬかーキ口歩くか。

近藤　　考える小林。

小林　　分かったよ。

近藤　　ごめんなさいね。

小林　　……。

小林　　……。

小林　　……。

小林　　部屋を出る小林。

近藤 それにしても頑なね田中くん。こんなだったっけ。

山田 そういうところあったよ前から。今回は特に先生との約束だし。

近藤 先生は来るの？

山田 あれ近藤さん知らないの？

田中 卒業してから特に連絡取ってなかったし。

山田 ああそうか。

近藤 え。なにになにに先生なにかあったの？

山田 どうする。お前が。

田中 いや言ってる。

山田 うん。近藤さんちよつと言いくいんだけど。

近藤 うん。

山田 気を落とさないで。

近藤 うん。

山田 本田先生亡くなられたんだよ。

近藤 嘘。

山田 高校2年の時。

近藤 本当に？

山田 うん。

田中 ぼくが最初に発見したんだよ。

山田 うん。そうなんだよ。

近藤 どうして？

田中 家の近くの公園で首吊ってた。

山田 ……。

田中 なんか眠れなくて散歩してたら先生が宙に浮いてた。最初はそう見えただよ本当に。近くに寄ってみたら首括ってた。生きてた時の見る影もなかったよ。すぐ降ろした方がいいのかどこか連絡したほうがいいのか迷ってたらまたまたま人が通り掛かったから「先生が死んでます」って。

山田 もういいよ。

田中 顔が膨れ上がって舌が。先生なんだけど先生じゃないんだよ。ピルは飲んでたみたいだけど。

近藤 もういい分かった。

山田 だから先生との約束にこだわってるんだよ。

田中 別にそんなじゃないけど。

近藤 まあ確かにここですって言ってたもんね。

田中 うん。

だからちよつとあれだけどこかで待とう。

近藤 そうね。

田中 トイレ行ってくる。

近藤 うん。

田中、部屋を出る。

近藤 そんなことになってたの？

山田 うん。

近藤 凄い綺麗な先生だったのにね。

山田 まあ男子は基本好きな先生だったよ。

近藤 そりゃそうでしょうね。

山田 たださ。

近藤 うん。

山田 さ、先生と付き合ってたっぽいんだよ。

近藤 うそお。

山田 本当のところは分からんけどさ。

近藤 嘘だと思ふなあ。

山田 まあそうだといいいけど公園で発見したっていうのも偶然じゃないんじゃないかな

近藤 いかって。

山田 ー。

近藤 そりゃ昔は先生っていったら凄く年上の女性のイメージだけど本田先生は

若かったし実際離れてるって言っても10歳くらいだろ。

近藤 まあ確かに。

山田 いや近藤、田中のこと好きだったでしょ。

近藤 いやいやなに言ってるの。

山田 違うの？

近藤 ー。

山田 皆知ってるよ。

近藤 そういふ山田くんだって高橋さんのこと好きだったでしょ。

山田 昔の話だよ。今は結婚して子供もいるし。

近藤 それはわたしだって同じ。

山田 子供いるの？

近藤 いやそういうことじゃなくって。いやまあいるけど。うんそうねいるよ。

でも離婚して子供も取られちゃった。
そうなのか。

山田
近藤 皆に言わないでね。
山田 分かって、あ。

田中、帰ってくる。

誰か来た？

田中
山田 いやまだ。

ああそう。

田中
近藤 もう来ないんじゃない？

そうだよなあ。

山田
近藤 だって今日の約束だって正式にした訳じゃなかったし。

じゃあなんで近藤来たの。

近藤 いやなんか覚えてたし一応。皆どうしてるのかなってのも気になったし。

山田 田中に会いたかった？

なに言ってるのよ。

山田 ふふ。

でもここで会見やったんだよな。

田中 そうそうそうそう。こんな小さい部屋で。全国に映像流れたもんな。

山田 『誰かお父さんを死なせてあげてください』って。中村さん涙流しながら。

うん。

山田 何度もニュースとかで流れたから。

近藤 何かの広告塔としてうまく使われちゃったんだろうね。

田中 どこかで何かおかしいと思いつつも連日同じこと繰り返されるとそのうち

そうなのかもしれないって。

山田 少し前ならこんなことになるなんて考えもしなかったよ。

田中 今は当然のことでも昔の人が見たらおかしいってことはたくさんあるんだ

よ。大昔の生け贄の風習が現在では異常とされてるとかさ。でも当時の人

は生きる為にはそれが必要だと思っていて。今の人たちは『死ぬ権利』が

あって当然みたいにいるけどやっぱりその前から生きてる人間として

はちよっと違和感あるよね。でも今から生まれてくる人からしたらそれが

当然なんだよたぶん。

山田 最初先生は中村さんを会見に出すの大反対してたんだけどな。

田中 うん大反対だった。

近藤 それがなんで急に出ることになったんだっけ。
田中 中村さんが自分で出たって言ったんでしょ。
近藤 みたい。

山田 先生も説得してたみたいだけどねえ。
田中 それで、あ、誰か来たかも。

小林が入ってくる。

あ。

小林 まだいたのかあんたら。

近藤 どうしたんですか。

小林 どうしたんですかって。歩いてたら段々腹が立ってきたんだよ。

山田 それまたどうして。

小林 なんで本来ここを使うべき人間が使わない人のせいで出ていけないといけないんだよ。

近藤 それはそうですよね。

小林 人ごとみたいに言うな。

田中 ぼくら気にしてませんから。

小林 だからそういう問題じゃないってんの。あんたら人が見ている目の前で自殺出来ますか？

田中 ぼくはちよっと無理かなあ。

山田 俺もちよっと厳しいかも。

近藤 そりゃそうだよね。

小林 だったら。

山田 あなただったら大丈夫そうかなって。

近藤 凶太そうだもんね。

小林 凶太い奴が自殺するか。

山田 我々もここで大事な待ち合わせしてるんですよ。

小林 大事なってなんでこんなところで。

近藤 ここじゃないと駄目なんですよ。

小林 だからなんで。

田中 昔ここで会見あったの知ってますか。

小林 会見ってなにが。

田中 尊厳死について。

近藤 中学生の女の子が会見してた。当時話題になったでしょ。

小林 ああ。あああれか。
田中 はい。
小林 で、それがなんだよ。
山田 ぼくらその時ここにいたんですよ。
近藤 会見に。
小林 なんて。
近藤 同級生。
小林 あの？
近藤 そうです。
小林 へえ。
近藤 そうなんです。
小林 で、なんでいまその人たちがここで待ち合わせしてるの。
近藤 その時に『10年後にもう一度この場所で会いましょう』って話になって。
山田 俺たちの先生が言ったんですけど。
小林 だからなんでそういう話になったのよ。
山田 そういえばなんでだろう。
田中 たぶんそうでも言わないと皆いなくなっちゃう気がしたんじゃないのかな。
近藤 なんて？
田中 こんな状況になるかもしれないってなんとなく予感があったんじゃないの。
近藤 こんな、つてなに。
田中 (首吊りスペースに目を遣りながら) この状況。
山田 あの時はこの状況になるとは思いもしなかったけど。
近藤 なんてあれがこうなるのって思った。
田中 そんなつもりで活動してた訳じゃないんだけどね。
近藤 そんなつもりじゃなかったよねほんと。
小林 よくわからんけどとりあえずその当時のメンバーが久し振りに集まるうってことだな。
近藤 まあそうですね。
山田 でも言った本人がもういないんじゃないかね。
小林 そうなのか。
近藤 どうしようかこれから。
山田 3人でどこか飯でも行こうか。
近藤 そうだね。
山田 どうする田中。
田中 まだ4時になったばかりだし。

小林 じゃあまだここに居座る気か。
山田 うんまあすいませんけど。

小林 5時になったらここ閉まるんだろ。
近藤 公共施設ですからね。

小林 4時半には出てって貰うからな。
山田 大丈夫だよな。
田中 うん。

小林 とりあえず座らせるよ。
近藤 ああはいはいどうぞ。

小林座る。

小林 そもそもなんでそんなことになったのよ。

近藤の携帯が鳴るが無視する近藤。
一旦止まってもまた鳴り出す携帯。

山田 出てもいいよ。
近藤 いやいい大丈夫。

田中 さっきも鳴ってたけどいいの。
近藤 うん大丈夫。

小林 それでなんでこんなことになったのよ。
近藤 元々中村さんのお父さんが事故で動けない状態になっちゃったんですよ。
小林 中村って誰だよ。

山田 会見で話してた子。
小林 お前らは当事者だからいいだろうけどぼくはその時のこと覚えてないから。
近藤 そうですねすいません。
小林 まあいいけど。

近藤 昼食食べた後くらいだよな。
田中 5時間目。
山田 そうそう5時間目。

近藤 授業中に突然他の先生が入ってきて「中村さん」って呼ばれて。
山田 なんなんだって感じで。あの時はそんな状況とは思ってもしなかったからちょっと授業中断して嬉しいくらいに思ってたわ。
近藤 でもその日は結局帰って来なかったね。

山田 次の日に『中村さんのお父さんが事故つたらしいぞ』って噂になって。
田中 事故つていうから凄いこと想像してただけどもの凄い小さい事故だったんだよね。

近藤 自転車で転んだんだってね。

山田 そうそうそうそう。そう言ってた。

近藤 前輪に荷物が引つ掛かって一回転したんとか。

山田 そうそう。

近藤 それで頭から落ちたんだって。

山田 怖いな。

田中 怖いよなあ。ある日突然動けなくなるんだから。例えばこの人がこの後どこかで転んで一生動けなくなることだってあるんだよ。

小林 なんでぼくなんだよ。

田中 いやまあなんとなく。

小林 やめろよ。

近藤 でも本当怖い。一瞬後に自分もそうなってるかもしれないって思ったらさ。その日たまたま自転車で出かけたらしいんだよね。普段はバスだったらしいのにその日たまたまそういうことをした時に限って。

山田 詳しいな田中。

田中 中村さんから聞いた。

近藤 田中くんって結構中村さんと仲良かったよね。

田中 そうでもないけど。

近藤 そういえば中村さんってあまり人と喋らないよね。

山田 いつも一人で弁当食べてたしな。

近藤 なんて署名活動することになったんだっけ。

田中 渡辺。

近藤 ああそうか。

山田 お祭り男だからあいつ。あいつが署名活動しようって言い出したんだろ。いま思うと絶対なにか大騒ぎしたかったただけだよね渡辺くん。

山田 先生も最初反対だったしな。

田中 でもまあ『先生同伴であれば』って親が言うから仕方なかったんでしょ。活発な中学生だったんだな。ぼくなんかザ・平凡を絵に描いたような生活だったわ。

田中 中村さんからしたらその方が良かったんだろうけど。

近藤 もしかして彼女からしたらいい迷惑だったのかも。

山田 確かにそれは少しあったかも。

近藤 ああそれでその渡辺くんは来ないの？
山田 たぶん来ないんじゃないかな。

田中 今でも連絡取ってるの？

山田 時々会うよ。でもあいつはもう駄目だ。

近藤 なんだ。

また近藤の携帯が鳴る。

切ってもまた鳴り出す。

山田 出なよ。

近藤 ……うん。

近藤、部屋を出る。

田中 渡辺いまどうしてるの。

山田 引き籠ってる。

田中 本当に？

山田 大学までは順調だったんだけどね。就職で第一志望に入れなくて。

田中 他は？

山田 そこしか受けなかったんだって。

田中 そうなの？

山田 あいつ自分のやりたいことしかやらないから。

田中 でもそれで駄目だったんでしょ。

山田 あいつこれまでそれでうまくいったからな。

小林 贅沢な男だな。ぼくなんか何度落ちたことか。

田中 いやいや普通はそうですよ。

小林 それでその渡辺くんは今も家に籠っていると。

山田 そうです。

小林 もっと人生頑張れよと言いたいね。

田中 あなたが言っても説得力ないですけどね。

山田 いやでも来るって言ってたんだよ。

田中 来てないじゃん。

山田 なんか『皆驚かせてやる』って。

田中 まあある意味驚いてるけど。

小林 裏に隠れてるんじゃないの。

首吊りスペースを覗き込む小林。

小林
うおあつ。

山田
なになに。

小林
誰か首吊ってる。

山田
嘘だろ。

首吊りスペースを覗き込む山田。

山田
うわほんとだ。

小林
ちょっとちょっとちょっと出ようよ。

山田
田中出よう。

田中
なんで。

山田
首吊ってるから。

田中
うん。

小林
うんじゃなくて。

山田
出よう出よう出よう。

田中
いやでもここで待ち合わせしないと。

山田
というかもしかして知ってた？

田中
なにが？

山田
そこで一人死んでるの。

田中
うん。

小林
うんて。

田中
あれ？

山田
なんだよ。

田中
もしかして渡辺かなそこの。

山田
なんでだよ。

田中
だって驚かせてやるって言ってたんでしょ。

沈黙。

井上が入ってくる。

井上
なにになになになに。なに騒いでるの。

山田
そこで人が首吊って死んでるんですよ。

井上 そりゃ死んでるでしょ。
山田 当り前みたいに言いますね。
井上 ここはそういう施設なの。
山田 いやまあそうだけど。
井上 なに冷やかし？
山田 違いますよ。
井上 たまにいるのよ肝試的に来る若人が。
山田 そうなんですか。
井上 死体を見て何が楽しいのやら。
山田 自分もそう思いますけど。
井上 もう5時になったら閉館ですからね。早くしてくださいね。あまりうるさくするとすぐ出て貰いますよ。

井上、退室。

それと入れ違いで高橋が入ってくる。

高橋 あのお。
山田 はい。
高橋 昔会見があつた場所ってここ？
山田 いまここに入らないほうがいいですよ。
高橋 なんで。
山田 そこでいま人が死んでるから。
高橋 死んでるって。そういう施設でしょここ。
山田 ああじゃあちよつと見て貰えませんか。
高橋 なんでよ。
山田 いやなんか平気そうだから。
高橋 いやよ。
山田 じゃあ田中見ろよ。
田中 やだよ。
山田 渡辺だったらどうするんだよ。
高橋 あれもしかして田中くんと山田くん？
山田 ん。そうだよ。
田中 うん。
高橋 わたしわたし高橋。
山田 高橋さん？

高橋 そうそうそう。久し振りい。
山田 高橋さんってこんなだっけ。
田中 いやどうだろ。

山田 高橋さんってもっと地味だったと思うんだけど。
高橋 山田くんだって昔はもっと静かな人だった気がするけど。
山田 そうだけどでも高橋さんは極端というか。
田中 派手になったよね。

山田 うん。

高橋 そりゃ10年も経てば人間変わるよ。

山田 まあね。

小林 というかどうするの。

田中 ああそうか。

山田 じゃあじゃんけんで決めよう。

高橋 えええ。

田中 まあ仕方ない。全員手出して。

澁々手を出す、高橋。

山田 いやあなたもですよ。

小林 なんてだよ。

高橋 誰この人。

田中 知らない人。

高橋 なんてここにいろの。

小林 こっちの台詞だよ。

高橋 まあいいや入って。

小林 だからなんでだよ。

山田 まあいいから。じゃんけんぽん。

小林 負ける。

小林 なんてだよもう。

田・山・高 よろしくお願いします。

小林 いやだから。

田・山・高 よろしくお願いします。

小林 いや

田・山・高　　よろしくお願いします。

小林　　……。

高橋　　もしかするとあなたは今日この日の為に生まれたのかもしれないね。

山田　　ああそうだよきっと。おめでとう。

田中　　間違いない。生まれてくれてありがとう。

小林　　やだよ。

山田　　どうせ今からあっちいくんでしょうが。

小林　　なんでちょっとキレてんだよ。

高橋　　早くしてよもう。

田中　　じゃんけん負けたんでしょ。

小林　　だから

田・山・高　　よろしくお願いします。

小林　　もう

田・山・高　　よろしくお願いします。

小林　　分かったよもう。

小林、渋々首吊りスペースに向かう。

パーティーションの奥から小林の声がある。

小林　　というか。

山田　　なに。

小林　　俺が見たって誰か分からないでしょ。

山田　　見た目が渡辺っぽい感じだから。

小林　　どんな感じだよ。

高橋　　え、渡辺くんが首吊ってるの？

田中　　たぶん。

高橋　　ええうそやだあ。

小林　　じゃあ俺が袋捲るから誰か見て。

山田　　渡辺っぽかったらそれでいいから。

小林　　渡辺っぽさというのはどういう感じだよだから。

山田　　なんかこう全体的に渡辺っぽて感じ。

小林　　うるさいいいから見ろよもう。捲るぞ。

山田　　ええどうする。

高橋　　じゃんけんする？

小林　　早くしろって。

山田 ええとじゃあ田中お願い。
田中 やだよ。
山田 意外と平気だろこういうの。
高橋 そうそう。意外と平気そう田中くん。
田中 何を持ってその判断を下した。
小林 早く。
山田 ほらほらもう。
高橋 お願いお願いお願い。
田中 分かったよ。

田中、パーティーシヨンの隙間から覗き込む。

田中 お。
山田 え、なに渡辺？
高橋 うそお。
小林 もういいかもいいかもいいか。
田中 大丈夫大丈夫です。

田中、奥に入っていく。

田中 なんだよこれ。ちょっとこれ見て。
小林 はあ？ なんだよ驚かせやがって。
山田 なにどうした。
田中 大丈夫こっちきて。
山田 なんだよなにがあるんだよ。
田中 いいから。

山田と高橋、恐る恐る奥に入っていく。

山田 なんだよこれ。
高橋 なにこれ。
小林 もうなんだよ。

田中、山田、高橋、着替えスペースに戻ってくる。

山田 これ絶対渡辺の仕業だよ。
高橋 イタズラにしては悪質だよな。
田中 そうかも。
高橋 渡辺くんは来ないの？
山田 引き籠ってるんだよあいつ。
高橋 渡辺くんが？
山田 うん。
高橋 意外。
山田 たまにメールはするけど絶対に会おうとしないからな。
高橋 そうなんだ。人間生きていると色々あるね。
山田 高橋さんは本当に変わったね。
高橋 うんそうだね。
田中 いまは何してるの。
高橋 働いてるよバリバリ。
山田 なんか凄いな。
高橋 働いてお金貯めて旅行行ったり美味しいもの食べたり買い物したり。凄く楽しい。そうそう去年結婚したんだよ。
田中 へええ。そうなんだ。
山田 子供とかはいるの？
高橋 いや……。
山田 作らないの？
高橋 うんまだちょっと。
山田 そうか。でも昔はもっと大人しい感じの人だったよね。
高橋 そうだと思うよ。高校辺りから吹っ切れた。
田中 なんで？
高橋 んー。法律改正があったからじゃないかな。
山田 ほう。
高橋 どうせいつでも死ぬるんだからいいやって。
田中 へえ。
高橋 だったら好きなことたくさんやるうって。
高橋 ああでもそれ凄い分かる。
山田 でしょ。
高橋 もし駄目だったら死んだらいいやって思ってから楽に生きられるようになったしそうしたらたくさん友達も出来たし結婚も出来たし。
山田 山田くんもどっちかというところ大人しかったよね。

山田 そうだね。だから法律改正って未だに賛否両論だけど俺は感謝してるよ。
ああそうそう。子供が生まれてさ。
高橋 そうなの凄いい。写真ある？
山田 あるある。

写真を渡す山田。

高橋 可愛い。いいなあ。いいなあ。
山田 高橋さんも作りなよ。
高橋 うんそうだね。
山田 というかまたホク口が気になってきた。
田中 またか。
山田 帰っていいかな。
田中 なんだ。
山田 うああ気になる。
高橋 奥さんに電話して聞いたら？
山田 そうだなちよっと聞いてくる。

山田、退室。

高橋 山田くんも明るくなったね。
田中 高橋さんほどじゃないよ。
高橋 あの当時のメンバーって基本暗い人が多かったから渡辺くん以外。あとは
田中 近藤さんもかな。
田中 そうかも。
高橋 田中くんは変わらないね。
田中 そうかな。
高橋 なんだか中学から時が止まっちゃってるみたい。
田中 そんなことないよ。
高橋 そうか。
田中 うん。

沈黙。

高橋 そういえば中学の時も二人でお話したことなかったね。

田中　　そうかも。

高橋　　というか田中くんは基本ほとんど誰とも話さないよね。
田中　　そうかな。

高橋　　なんで署名活動に参加したの？

田中　　なんでだろう。

高橋　　先生が好きだったんでしょ。

田中　　どうかな。

高橋　　絶対そうだよ。

田中　　高橋さんはどうして参加したの。

高橋　　なんでだろう。

田中　　なんだよそれ。

高橋　　本当なんでだろう。はっきり思い出せないんだけどたぶん何か打ち込むものが欲しかったんだと思う。あの時期ってそういうのあるじゃん。他の皆もたぶんそうなのかなきつと。でも地味なタイプばかり揃ったよね。渡辺くん当てが外れたって感じだったもん。

田中　　それはなんとなく分かる。

高橋　　それで話戻るけど近藤さん田中くんのこと好きだったんだよ。

田中　　そうなの？

高橋　　気付いてあげてよ。

田中　　うん。

高橋　　もの凄い鈍感。もしかするとまだ好きかもよ。

田中　　でも結婚したらしいよ。

高橋　　来てるの？

田中　　うん。電話しに行った。

高橋　　そうなんだ。

田中　　うん。

沈黙。

高橋　　誰も帰って来ないね。

田中　　うん。

高橋　　わたし変かな。

田中　　なにが？

高橋　　中学の時のほうが良かった？

田中　　いやそんなことないよ。

高橋 いま凄く楽しいし全然いいんだけどたまに疲れることもあって。
田中 なにが。

高橋 ずっとここにこしてないといけないし。たまには一人になりたいこともあるんだけどそういう訳にもいなくなってるし。ちよつと油断すると周りから置いていかれる怖さみたいなのがあつてさ。田中くんみたいなのちよつと羨ましい時ある。

田中 これはこれで面倒だよ。

高橋 うん分かるよ。わたしもそうだった。

田中 うん。

高橋 なんかいきなり深い話しちゃったね。

田中 うん。

高橋 今日ここに来る時猫被ったほうがいいか迷ったの。でもそのままのほうがいいかなと思つて。

田中 いいと思うよ。

高橋 案の定びっくりされたけど良かったかなこれで。

近藤が戻ってくる。

近藤 ごめんなさい。電話長引いちゃつて。

田中 大丈夫だったの？

近藤 うんまあ。

高橋 お帰りなさい。

近藤 ン。誰。田中くんの彼女？

田中 違うよ高橋さん。

近藤 え、高橋さん。こんなだっけ？

高橋 近藤さんだよね久し振り。

近藤 えええ。凄く変わったね。びっくり。

高橋 ほらびっくりした。

田中 ほんとだ。

高橋 ふふ。

田中 ふふ。

近藤 なにもう。あれ山田くんは。

田中 ホク口の件で奥さんと電話してる。

近藤 気にし過ぎだよ。

高橋 で、結局いま、田中くん、山田くん、近藤さん、わたし？

近藤 渡辺くんは？
田中 来ないよたぶん。
近藤 なんて？
田中 その奥見れば分かるよ。
近藤 そうなの？

近藤、奥を覗くと小林が首を吊ろうとしている。

近藤 ああちよつとちよつとちよつと。
高橋 え、なによ。

高橋が奥を覗く。

高橋 ああ田中くんちよつとちよつと来て。
田中 なになに。

田中、奥を覗くと同時にパーテーションを乱暴にどけて小林を助けに入る。

田中 ちょっとなにやってるんですか。
小林 止めるなよ。
田中 とりあえずこっちに。

田中、奥から小林をひきずってくる。

近藤 なんで死のうとしてるんですか。
小林 いやだから元々死ぬつもりでここに来ただけど。

井上が入ってくる。

井上 今度はなに。
近藤 いやなんでもないです。
井上 もうそろそろ閉館ですよ。
小林 まだ30分以上あるでしょ。
井上 5時きっかりに閉館しますからね。
小林 少しくらいいいでしょ。

井上 駄目。今日美容院の予約入れてるから。パーマあてるんだから今日。
近藤 なんですかその情報。
小林 人の命がかかっているんですよ。
井上 そんなこと気にしてたらここで働けないわよ。
小林 いや本当に。
井上 パーマですから。
近藤 なんですかパーマって。
井上 パーマ知らないの？
近藤 知ってますよパーマくらい。
井上 ああびっくりしたパーマ知らないのかと思った最近の若人は。
近藤 じゃなくてですね。
井上 5時になったら閉館。出ていってくださいね。ほんと。

井上、退室。

近藤 パーマあてたって変わらないよねあれじゃ。
高橋 うん。
小林 というかさつきまで好きに死ね的な感じだったでしょうが。
田中 いきなり自殺風景が飛び込んできたから。
近藤 もう止めませんかから。
小林 もうやだよせっかく決意したのに。
高橋 なんて死にたいの？
小林 関係ないだろ。
高橋 そりゃないけどさ。
近藤 わたしたちもまだここにいないといけないから相談くらいなら乗りますよ。
小林 お前らみたいな幸せな連中には分かんよ。
近藤 別に幸せじゃないけど。
小林 どこからどう見ても幸せだよ。結婚もしてるんだろ。
近藤 離婚したけどね。
高橋 ああそうなんだ。
小林 だから分らないって。
高橋 いやいやこの人（田中）を見て幸せだって言える？
田中 え。
近藤 確かに田中くんは人生が充実しているようにはとても見えないわね悪いけど。

田中 なにこの流れ。
小林 いやまあ確かに彼はぼくと非常にオーラが似ている。
高橋 でしょう。
近藤 とりあえず聞いてあげますよ。
高橋 座って座って。
田中 解せぬ。

小林を座らせる2人。

小林 いやこれと言った理由はないんですけどね。
高橋 ええええなにそれ。
小林 生きる理由もないって言うのが理由というか。
近藤 どういうこと。
小林 人間が生きる目的ってなんだと思いますか。
近藤 んーお互いがお互いに世の中に貢献しながら生きるみたいな。
小林 全然違いますよ。
近藤 じゃあなによ。
小林 生物として生まれた以上人は子孫を残して人類を存続させていかないと
けないんです。
近藤 似たようなものでしょ。
小林 全然違います。
近藤 ああそうですか。
小林 でもぼくにはそれが出来ない。
高橋 彼女作ればいいでしょ。
小林 それが出来ないから言ってるんでしょうが。
高橋 そうなの？
小林 自分で言うのもなんですけどモテません。
近藤 そりゃあね。
小林 それが出来ないということは人間として欠陥品なんですよ。ならばとアウ
トローと割り切って明るく生きることも出来ない。
高橋 なんて。
小林 働いてると疑問が湧いてくるんですよ。

山田が帰ってくる。

山田 ごめん電話長くなっちゃった。
高橋 おかえり。
田中 どうだった？
山田 絶対ホク口ないと思うんだよ。
高橋 奥さんはなんて言ってたの？
山田 あるって。いま見たって。
田中 じゃああるんでしょ。
山田 ないって絶対。
田中 でも奥さん見たんでしょ。
山田 いや絶対ないというか帰っていいかな。
近藤 なんて。
山田 ちょっと確かめてくる。
田中 山田って家どこ。
山田 大阪。
高橋 遠っ。
近藤 あとにしなよ。いつでも確かめられるでしょ。
山田 でもさあ。
田中 いいからもう。いま大事な話してるんだから。
山田 ああそうなの。
小林 いいですかね。
近藤 ああすいません。
小林 やめましょうか。
近藤 いいえ言ってください。
小林 疑問が湧いてくるんですよ。
山田 なにが？
高橋 いやもう後で説明するから。
小林 このままぼくは人生を終えていくのだろうか。身体的にも人生的にもあと
は下る一方じゃないか。少しずつ年老いて身体機能も低下してこれまで出
来て当たり前前のが出来なくなっていく。たまに道を時速50メートル
くらいで歩いている老人とかスーパードライヴの惣菜漁っている老人とか
を見ると俺も将来あんな風になるのかって。あんな人生をひとり生きて
いくのか。ならいっそ下り坂になる前に死ぬべきだと。
山田 そんなの死んだつもりで生きていけばなんとかなるって。
高橋 いやごめん。凄くいいこと言ってるんだらうけど話の主旨が全然分かって
ないから山田くん。

山田 ええなに。どういう話。
いいからもう。

高橋 だからもういいんですよ。

小林 じゃあぼくも死んだほうがいいなやっぱり。

田中 なんて。

小林 いまの話だとほとんどぼくと被るんですけど。

田中 君は君の考えで生きるか死ねばいいよ。

小林 じゃあ死にます。

高橋 なんていきなり田中くんが死ぬことになるのよ。

近藤 あなたが変なこと言うからですよ。

山田 そうだそうだこの野郎。

高橋 山田くんは分かってないでしょ。

山田 年は取りたくないねって話だろっが。

高橋 違うからもう山田くんは黙ってて。

山田 なんだよいいじゃんかよ。

小林 というかなんでぼくが責められる形になってるんですか。

近藤 あなたが哲学的なこと言い出すからでしょう。

小林 聞いたのはあなたたちでしょ。

近藤 そんな哲学的なこと言うとは思わないでしょ普通。

高橋 なんでそんな哲学的なことを言うのよここで。

山田 哲学的な風貌でもない癖に。

高橋 山田くんはいいから。

山田 おう。じゃあちよっとよく分からないからもう一度確認してくる。

高橋 確認ってなに。

山田 ホク口。

高橋 また？

山田 ちよっと行ってくる。

山田、退室。

小林 もういいですかね。

高橋 いやいや駄目ですよこの哲学野郎。

近藤 そうよ田中くんを説得してよこの哲学野郎。

小林 なんだそのあだ名。

高橋 とにかく哲学はやめてよ哲学野郎。

近藤 田中くんが感化されちゃうでしょ哲学野郎。
小林 ならとりあえずそのあだ名やめろよ。

田中 いやいやぼくは最初から死ぬつもりだったよ。

近藤 ええ何言ってるの。

田中 5時になったら首を吊るって言ったでしょさっき。

近藤 本気なの？

田中 うん。

近藤 なんで？

田中 特に生きている理由もないし。国が死んでもいいっていうなら死のうかと。

近藤 駄目だよ。なに言ってるの。

田中 せっかくこんな施設も出来たんだから。

高橋 そういうことじゃ。

田中 法律改正前の自殺者が年間3万人だったのが、この法律が出来てから年間14万人。一気に5倍近く。以前は他人の自殺なんて風の噂で聞くくらいのレベルだったけど、今はぼくらのすぐ側に死が存在する。人間は死んでもいいってなったら死ぬ生き物なんだよ。というか死ぬ事が出来る生き物なんだよ。

近藤 ー。

田中 だから法律で禁じているところもあるし太古の昔から宗教でも自殺は禁じてるんだよ。自殺禁止なんて教義でもなくてもそうでもない人間社会が崩壊してしまうから言ってるだけだよ。自殺したら地獄に落ちるなんて脅かして自殺しないようにしてるんだよ。そうしないと働く人がいなくなって上の人は困るから。なんでこんなことになっちゃったんだろう。きつと世の中にあるよく分からないルールはこんな感じで生まれてきたんだろうなって心から思うよ。

近藤 なに抗議のつもりで死ぬつもりなの。

田中 違うよ。死にたいから死ぬんだよ。別にこの世に未練もないし、あ、でも

近藤 ひとつだけある。

高橋 なに。

田中 中村さんに会いたかった。

近藤 やっぱ好きだったんだ。

田中 違うよ。

高橋 じゃあなんなのよ。

田中 逆。

高橋 逆？

田中 中村さんに言っておきたいことがあった。
高橋 なになに。

田中 中村さんのせいで先生は死んだんだって。

高橋 ええ先生死んじゃったの？

近藤 うん自殺されたんだって。

高橋 そうなんだ。

田中 中村さんがあんなこと言い出さなかったらこんなことにならなかった。先生があんなに苦しむことはなかったんだよ。

高橋 でもあれはわたしたちが好きで始めたことですよ。

近藤 むしろ中村さんは迷惑だったと思うよ。

田中 だったらなんであんな記者会見するんだよ。先生はやめろって言ったのに。言いたいこと言ったら中村はさっさとどこかに引越して、結果その矛先が全部先生に向けられた。

近藤 でも別にそれは中村さんが望んだことじゃないでしょう。

田中 望む望まないの問題じゃない中村さんのせいで先生は死んだ。それだけ。

そのことをあいつの目の前で言いたかった。自分がやったことをもっと自覚するべきなんだよあいつは。でもやっぱり来ないみたいだからもういいよ。色々面倒になってきた。

小林 なんだよ急に。

田中 なんだか最近あらゆる事が馬鹿馬鹿しくなってさ。ほらぼくら呼吸して
るじゃん。ずっと呼吸してるとだよもう25年くらい。それすら馬鹿馬鹿
しくなってきた。数分息を止めたら死ぬんだよぼくら。それなのにずっと
呼吸してる。心臓を動かしてる。少しも休まず。飽きもせず、懲りもせず。
ただの肉塊だよこれじゃあ。

近藤 ー。

田中 半日もしたらお腹空いてご飯食べて排泄してまた半日もしたらお腹空いて
排泄して。お腹空くから仕事してお金貰って疲れるから休みの日はずつ
と家で寝てお腹空いてまた排泄して。なにしてるんだらうぼくは。

小林 とりあえず死にたいのは分かった。でも君がそこで死んだらぼくはどうし
たらいいんだよ。

田中 横で一緒に死ねばいいんじゃないですか。

小林 それはなんだか死にづらいな。

田中 どうせ死ぬんだから一緒ですよ。

小林 まあ孤独に死ぬよりマシか。

近藤 ならわたしも一緒に死ぬよ。

高橋 なに。なにになにもう今度は。

近藤 離婚されて子供取られて。なのに今度は奴が死んだからやっぱりあなたが育ててくださいって。ずっと携帯が鳴り止まない。もうあの子はわたしの子じゃないって。わたしの子じゃないって。やっと自分にいい聞かせたのに。

高橋 ちよちよちよちよと待って。待ってってば。ああもう。山田くん。山田くん呼んでくるから。

高橋退室。

田中、近藤、小林、おのおの首つり台の紐をセッティングし始める。

小林 君ら自殺用。ピルは飲んだの。

近藤 いいよもうそんなの。

小林 さっきは偉そうに飲めって言ってたじゃないですか。

近藤 あなたの気持ちがあんなに分かったよごめん。

田中 うんごめんね。

小林 本当自分勝手だな人間って。

近藤 そうだね。

3人揃って首吊りの体勢に入る。

そこに山田と高橋が罵り合いながら入ってくる。

高橋 だからなんで帰ろうとしてるのよ。

山田 だってホク口が。

高橋 後でいいでしょうもう。

山田 もしかして俺の子じゃないんじゃないだろうか。

高橋 馬鹿でしょあなた。

山田 馬鹿ってなんだよお前昔はそんなじゃなかったよ。

高橋 それはいいでしょうもう。

罵り合う二人を見ている田中たち。

山田 というかなにこの状況。

高橋 なんか色々あって3人とも死ぬとか言い出してるの。

山田 おいおいやめろよ。

近藤 もう呼吸するのも嫌なの放っておいて。
山田 この数分で近藤さんになにが起こった。
高橋 あの哲学野郎が変なこと言い出すから。
小林 むしろこいつ（田中）が煽動したようなもんだろ。
山田 そうなのか田中。
田中 自分の思ったことを言ったただだよぼくは。

井上入室。

井上 まだいるの？
山田 いやすいませんもう。
井上 もう5時になるんだけど。
山田 もう出ますから。
高橋 あと1ー、2分ありますよね。
井上 ねえパーマ。分かる？
高橋 パーマ。
井上 そうパーマかけるの今日。パーマメント。
高橋 パーマメント。
井上 5時半に予約してるの。パーマを。
高橋 はい。
井上 パーマ。
高橋 パーマ。
井上 5時になったらすぐ出ないと間に合わないの。パーマ。
高橋 パーマ。
井上 だから早くして。もう閉めるから。パーマだから。
高橋 パーマ。
井上 そうパーマだから。
山田 いやこの状況見てくださいよ。
井上 あなたこそパーマのことどう思ってるのよ。
山田 特にしなくても大丈夫ですよあなたは。
井上 やっと予約取れたのよパーマの。
山田 じゃあじゃあじゃあどうにかしてくださいよこの状況。
井上 分かったわよ。誰。死にたいのは誰。手を挙げて。

手を挙げる田中、近藤、小林。

井上 着替えてないじゃないのあなたたち。
近藤 そんな気分じゃないんです。
井上 着替えなさい早く。処理の人が困るでしょ。

着替えるよう促す井上。

井上 ああいい。やっぱりいい。もうそのまま死になさい。パーマ間に合わないから。

山田 なにもかもパーマ基準なんだな。

元に戻るよう促す井上。

井上 じゃあいい？ 1、2の3で死ぬ。いいわね。

近藤 ちょっと心の準備が。

井上 うるさい。パーマだから。1、2の3。はい。

死ねない3人。

井上 なにやってるの早く死になさいよ。

小林 いや急に言われても。

井上 じゃあもう一回いくから。いい。じゃあ1、2のパーマでいくから。

山田 なんだそれは。

井上 はい1、2のパーマ。

死ねない3人。

井上 はい駄目。終了。帰りなさい。脱兎の如く帰りなさい。

近藤 少しくらい準備させてください。

井上 駄目。パーマだから。

山田 パーマパーマうるさいな。

井上 君たちあれでしょ。10年前にもここにいたでしょ。

高橋 なんて知ってるの。

井上 あの時の会見の子たちでしょ。

近藤 はい。はいいました。でもどつして。

井上 当時からこの職員だから。

山田 いやでもよく覚えてるな。俺らですらちゃんと顔覚えてなかったのに。伊達にパーマあててないわよ。特にそのの彼なんか凄くよく覚えてる。いやぼくはいなかったですけど。

井上 (小林を無視して) 君たちは当時と全く変わってないわね。人に迷惑掛けてばかり。

高橋 なにがですか。

井上 当時も君たちは大騒ぎして周りの大人たちを困らせて。

山田 そんなことしましたっけ。

井上 したでしょ。覚えてないの。会見ギリギリまで会見に出る出ないで揉めてたでしょ。

山田 ああまあそれは。

井上 君たちが皆でテレビに出るって言ってて保護者が先生か分からないけど止めてたでしょ。

田中 いやぼくはそんなこと言ってない。

山田 ああでもそう言われればそんなこと俺ら言ってた気がする。ちよっと待って。そうかもそうかも。渡辺くんが煽動して。

田中 いやでもぼくは言ってない。

山田 自分のことばかり言うなよお前。

田中 でも言うてないって。

高橋 ああなんか思い出した。確かにわたしと田中くんは横で見てた。でも嫌とも言わなかったし。

田中 でも出るってなったら嫌だって言ってたよ。

山田 だから代表して中村さんが出るって話になったんだ。

田中 いやでもさ。

ドアが開いて女姿の渡辺が現れる。

渡辺 山田たちだよ。皆元気？

山田 誰？

渡辺。渡辺。

高橋 渡辺くん？

渡辺 えっと君は。

高橋 高橋。

渡辺 ああ高橋さん。なんかだいぶイメージ変わったね。

高橋 うん。うんまあまあ。それよりも渡辺くんのほうが。
近藤 あれ渡辺くんって男だったよね。

渡辺 昔はね。

山田 なにがあったんだよお前。

渡辺 お前って。レディーに失礼ね。

山田 レディーで。

渡辺 というかいまどういう状況？

山田 なんか色々あって皆死のうとしてるらしいんだけど。

高橋 えっとどっち優先したらいいんだろう。

山田 もういいから皆降りろよそこから。

田中、近藤、小林を無理矢理台から降ろす山田。

小林 なんでぼくまで。

山田 うるさいいいから。

小林 うるさいってなんだよ。

井上 とにかくもういい大人なんでしょあなたたちも。人に迷惑ばかり掛けてな

いのでさっさと帰りなさい。その年齢なら子供いるのもいるでしょ。

山田 ああホク口。

高橋 もうやめてそれ。

小林 ぼくこの人たちと違いますから。

井上 いいから。パーマだから。

小林 なんでもありですねパーマ。

井上 どうしても死にたいなら明日から3連休だし休み明けにまた来なさい。

小林 そんなことしたら死ぬ気なくなりますよ。

井上 それならそれでいいでしょう。せっかくだから連休中にパーマでもあてな

さい。

小林 嫌ですよ。

井上 ほらもう。他の戸締まりしてくるからその間に帰りなさい。いい？

井上、退室。

渡辺 なに。もう退館時間なの。

高橋 みたい。

山田 ちょっとなんだよお前その姿。

渡辺 なにって綺麗でしょ。
山田 性転換でもしたのか？

渡辺 うん。

高橋 すごおい。意外と綺麗かも。

渡辺 でしょう。

山田 いやなんで？

渡辺 引き籠り時代にネカマやっててなんか女言葉で話したりしてたら楽しくなっちゃってさ。ある日突然思いついた訳。もしかして女装もいけるんじゃないかと。それでさっそくネットで服買って試してみたらこれがヒットでスカート履いて一日過ごしてみた訳。それが思った以上にしっくりきちゃって。翌日にはメイクして街歩いてた。これだって思ったね。もともと女顔だったしもうわたし女でいいよねって。むしろこれまでが間違ってたんだよねって。これまでの25年返せって思ったね。

山田 いやうん。でもじゃあこの前驚かせてやるって。

渡辺 驚いたでしょ。

山田 あ。はい。

近藤 高橋さんの変化も結構びっくりしたけどこれは。

高橋 わたし霞んじやったよね。

田中 でもじゃああの人形は？

山田 そうそう。そうだよ。お前あれ吊ったんじゃないの？

渡辺 あれってなに。

山田 ほらあれ（人形を指差す）。

渡辺 あれ？

山田 あれ。

渡辺 違うよ。なに言ってるの。

田中 じゃあ誰だよあれ。

近藤 なんなの。

渡辺 誰かのいたずらでしょ。

山田 いたずらにしてはちよつと陰湿だな。

渡辺 そういうNPOがあるみたいだよ。自殺の前になんとか思いとどまって貰うように。

田中 そうなんだ。本当余計なお世話だよ。

人形を殴りつける田中。

近藤 まあ渡辺くんじゃなくて良かった。
山田 違う意味で渡辺は良くないけどさ。

渡辺 なに文句あるの。

山田 いいよ好きにしるよ。

渡辺 するよ。

高橋 もういいから出ようよ。パーマの人がまたうるさいよ。

渡辺 じゃあどこかでご飯でも食べようか。

山田 俺は帰るよ。

渡辺 なんで？

高橋 まだ気になってるのホクロ。

山田 なるだろそりゃ。

高橋 じゃあもうその子は山田くんの子じゃないってことにしましょう。

山田 そういうこと言うなよ動悸が止まらない。

渡辺 よく分からないけど諦めよう。今日は皆でご飯ご飯。

山田 頼むから帰らせて帰らせて。

退室する山田と渡辺。

小林 ごめん今からでも間に合うよね。

もう一度台に上ろうとする小林。

高橋 だからあなたも諦めなさいって。

小林 ようやく決心してここまで来たんだよ。

高橋 そこまで悩むならもう少し悩んでみたら。

小林 したんだよ一年も。

高橋 わたしはいつでも死ぬると思ったたら楽に生きられるようになったよ。

小林 そういうこと簡単に言うのは想像力がないからだよ。

高橋 想像力？

小林 もしくは楽観的過ぎるんだよ。結局死ぬ気になってって言うてもプラス面
でしか考えてないんだから。本当に死ぬ直前まで追いつめられた奴はそんなこと絶対言わない。でもそれでいいと思うよ。だってそこまでいっ
ちやったら死に取り憑かれているようなもんだから。

高橋 難しいことばかり言うね。

小林 いいよ死なせてくれないなら連休明けにまた来る。絶対にぼくは死ぬ。

退室する小林。

高橋 どうせなんだかんだで死なないタイプでしょうね。

近藤 うんまあそうだね。

高橋 近藤さんと田中くんももういいよね。

近藤 渡辺くんのおれ見ちゃったら今日はもういいや。死ぬ気なくした。

高橋 近藤さん本当に子供じゃないの？

近藤 ん？

高橋 なんならわたしが養子に貰ってあげる。

近藤 駄目。駄目駄目駄目。

高橋 なに。さっきいらないみたいなこと言ってたでしょ。

近藤 いやあれは。

高橋 あのね。子供欲しくても手に入らない夫婦だっているんだよ。だから大事

にしてあげなよ。

近藤 ……うん。

高橋 ぬか喜びさせないですよ。もう先に行くから。

退室する高橋。

沈黙する田中と近藤。

近藤 わたしたちも行くごよ。もう自殺しないでしょ。

田中 うん。

近藤 中村さん来なかったね。

田中 ずるいよあいつは。

もう一度人形を殴りつける田中。

人形の胸ポケットから紙切れが出てくる。

近藤 ん。そこ。なにか出てきたよ。

田中、紙切れを拾い、そこに書いてある文章を読み始める。

田中 本当なんなんだよあいつ。

近藤 なに。どうしたの。

田中、無言で近藤に紙切れを渡す。

近藤

…中村です。皆さん、お元気ですか。皆はここに来るのでしょうか。ちゃんとした約束じゃなかったし、おそらく誰も来ないと思うけど、もし、もし誰かここに来るようなことがあった時の為にこの手紙を残しておきます。

当時、わたしは皆のことが大嫌いでした。皆、表面的には尊厳死について語っていたけれど、本気でその意味について考えてくれる人は誰もいなかった。会見の時だって、テレビに出ることしか皆考えていなかった。先生のことは噂で聞きました。わたしたち家族のことを本当に心配してくれたのは先生だけでした。わたしが引越した後もずっと気に掛けてくれました。本当に感謝の言葉もあります。

一方で皆のことはずっと憎んでいました。けれど、今思えば、皆がああやっていてくれていたことで、わたしの気が紛れていたのだとだいぶ後になって気付きました。人を憎むことで悲しみが芽を出さずに済みました。そんな救われ方もあるのだと今は思っています。きっと皆のおかげで死なずに生きていられたのだと思います。

わたしは生き続けます。わたしは絶対に自殺しません。今はまだ皆と会うことは出来ませんが、でも、もし更に10年後、皆が会ってくれるのであれば、また、この場所で待っています。

田中

来てたんだよ、中村さん。

近藤

みたいだね。

田中

ずるいよ本当に。被害者面してやることなすこと一方的過ぎる。

近藤

中村さんにまだ会いたいのか？

田中

文句言ってやりたい。

近藤

なら10年後またここに来るしかないね。

田中

だからずるいんだよ。

部屋の外から井上の声がする。

井上

まだいるの。パーマ。パーマだから。

近藤

行こうよ。

田中

うん。

出て行こうとする田中。

近藤
ねえ。

田中
ん？

近藤
田中くんって本田先生と付き合ってたの？

田中
なに突然。

近藤
そんな噂聞いてさ。

田中
……そんな訳ないじゃん。先生だよ。

近藤
そう。そうだよね。うん。

田中
皆待ってるから。

近藤
うん。田中くんさ。

田中
うん。

近藤
子供好き？

田中
今度はなに。

近藤
好き？

田中
苦手。

近藤
ふふ。だろうね。

田中
なんだよもう。

部屋の外から井上の声がする。

井上
パーマー。

慌てて部屋を出る田中と近藤。

幕